



平成 23 年 2 月 4 日

各 位

会 社 名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 田 島 秀 二
 (コード番号：7707 大証ヘラクレス)
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 業 務 本 部 長 秋 本 淳
 (TEL.047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 22 年 8 月 13 日公表した業績予想および配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

- (1) 平成 23 年 6 月第 2 四半期(累計)連結業績予想の修正 (平成 22 年 7 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)
 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	2,200	90	80	50	547 円 89 銭
今回修正予想 (B)	1,529	△153	△162	△158	△1,731 円 32 銭
増減額 (B - A)	△671	△243	△242	△208	
増減率 (%)	△30.5%	-%	-%	-%	
(参考) 前期第 2 四半期実績 平成 22 年 6 月期第 2 四半期	2,724	429	409	363	8,495 円 09 銭

- (2) 平成 23 年 6 月通期連結業績予想の修正 (平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,400	180	160	100	1,095 円 77 銭
今回修正予想 (B)	3,200	△260	△280	△260	△2,849 円 00 銭
増減額 (B - A)	△1,200	△440	△440	△360	
増減率 (%)	△27.3%	-%	-%	-%	
(参考) 前期実績 平成 22 年 6 月期	5,637	718	653	549	12,647 円 69 銭

(3) 連結業績予想の修正理由

前連結会計年度においては、世界的な新型インフルエンザの流行により、遺伝子検査の需要が急速に高まったことから、当社の DNA 自動抽出装置は大きく売上が伸びました。同装置の利用に伴い消費されるプラスチック消耗品も同様でした。

しかしながら、新型インフルエンザの流行が終了する過程において、出荷過多となった装置およびプラスチック消耗品が、流通段階で過剰在庫となっており、当連結会計年度は、販売に苦戦する状況が続いております。特に、欧州主力 OEM 先に顕著な影響がでております。

当社としても、こういった反動については、ある程度は予想していたものの、現時点においては、その予想を超えて低調な出荷状況が続いておりますので、今般、業績予想の下方修正を行うことといたしました。

なお、通期連結業績予想の修正におきましては、為替の見通しを、1 ユーロ=110 円、1 ドル=80 円にて算定しております。(期初における想定レートは、1 ユーロ=110 円、1 ドル=85 円でした。)

(4) 今後の見通しについて

現在の受注状況から判断すると、この第 2 四半期 (10~12 月) を底に、売上は回復していくものと予想しております。

業績回復の兆しはあるものの、当初予想の水準には及ばず、結果として、当連結会計年度は赤字見通しとなっておりました。しかしながら、これは、前連結会計年度の業績急拡大の反動が大きく影響したものであり、欧州主力 OEM 先との取引事情による一過性のものであると考えております。

一方で、米国 OEM 先を中心に、その他の OEM 先への販売は順調に拡大しております。また、米国 IntegenX 社との取引開始 (平成 23 年 1 月 26 日付プレスリリース参照) をはじめ、その他の新しい商談も進んでおります。したがって、当社装置に関する需要そのものは拡大基調にあると思われ、今後の中長期的な事業拡大は、十分に期待できるものと考えております。

2. 配当予想の修正について

(1) 修正の内容

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
前回予想 (平成 22 年 8 月 13 日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 200.00	円 銭 200.00
今回修正予想	—	0.00	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00			
前期 (平成 22 年 6 月期) 実績	—	0.00	—	3,000.00	3,000.00

(注) 平成 22 年 7 月 1 日付で、普通株式 1 株につき 2 株の株式分割を行っております。したがって、配当の前期実績は分割後で 1,500 円に相当します。

(2) 配当予想の修正理由

当社は、内部留保については、研究開発活動を中心として、企業価値を高める様々な活動に利用していく方針であります。そのため、配当と内部留保のバランスをとりながら株主還元を行っていきたいと考えておりますので、当面の間は、配当性向 20%をひとつの目安として運用していく方針であります。

当連結会計年度につきましては赤字見通しとなりましたので、当社の配当方針に従い、残念ながら無配となる見通しとなりました。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上